

決 裁	議 長	局 長	参 事	

受付

# 報 告 書

平成 2 5 年 月 日

湯前議会議長 山下 力 様

湯前町議会議員

議員派遣として参加（出席）した研修（会議）の内容（結果）は、次のとおりでありました。

期 間	平成 2 5 年 8 月 2 7 日（火）
場 所	益城町 グランメッセ熊本 2 階コンベンションホール
目 的	平成 2 5 年度町村議会「常任委員長・議会運営委員長」研修会

報 告 の 内 容	◆研修概要
	・講師 黒崎 誠
	・演題 「これからの政治・経済のゆくえ」
	◆研修内容（以下の※印は、講師発言の訂正箇所、個人的な補足説明です）
	1. 民主党はなぜ大敗したのか？
	・東京都議選の結果を踏まえていない。
	・勉強不足（野党の間、自民党はしっかりと勉強会していた）
	・思い上がり（官僚を使えていない、官僚のことを聞かない、官僚は優秀）
	・日本の構造を理解していない。（安易なガソリン値下げ隊、道路一般会計の一般会計化）
	・選挙ではなく今の日本（地方）をどうすればよいのか、自民党は民主党よりも熱心に勉強していた。
2. 安倍政権の政治課題	

報 告 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外交問題</li> </ul>
	中国はハワイを堺に海洋を米国と分けようといっている。尖閣ではなく太平洋の覇権を狙っている。
	中国の防衛予算は10兆円を超えたが、軍事部門への実質的な国家資源は公表国防費の2倍前後との見方がある。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は右傾化しているといわれるが、右傾化しているのはむしろ中国と韓国である。</li> </ul>
	韓国は徴兵制を敷いている。慰安婦問題は、日本は貯金の3分の2を韓国に支払った。（日韓条約）
	日本は、米国が中国から攻撃されても、法律上助けることができない。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・靖国神社は「慰霊」であって、外国から内政干渉されるのはおかしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自民党は派閥が復活した。町村派で89名。</li> </ul>
	浅生派は33人。額賀派51人、岸田40人、大島派1人1、石原派13人
	※二階派30人、谷垣派13人、無派閥128人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安倍政権は、半年たって60%以上の支持率。10%以上落ちていない。</li> </ul>	
安倍さんは、仕事熱心で休まない。→ 多くの外交、2回の選挙。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安倍さんの後任がない。自民党の今後に大きな影響。</li> </ul>	
石破さんは、国民的人気がない。	
石原さんは、東京育ちで苦労していない。地方を知らない。	
小泉進次郎さんは、総理大臣には20年早い。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー政策</li> </ul>	
現状は、火力発電所でなんとかもっている。	
多くの工場が海外へ逃げた。電力コストが高すぎる。中小企業も出ていっている。	
中国は、石油・石炭がある。電力コストは日本の3分の1（人件費も10分の1）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のようにエネルギーコストが高いままだと問題。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電力を使わない産業はない。</li> </ul>	
3. アベノミクスの目指すものは？	
【第一の矢：大胆な金融緩和】 → 成功	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・株価上昇 14000円（70%）以上、上昇</li> </ul>	
今のままいけば企業業績は上がる。ドル円92円～95円で予測している。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップの責任 → 黒田さんは冷や飯組だが実行力がある。これが当たった。</li> </ul>	
【第二の矢：機動的な財政出動】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋ベルト地帯で産業が発達した。 → 田中角栄が列島改造論</li> </ul>	

報 告 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと創生事業、全部は成功していないがいくつかは成功している。それが今までの日本のやり方。</li> <li>その流れを変えたのが小泉総理。小泉構造改革で貧しい人が増えた。</li> </ul>
	<p>【第三の矢：民間投資を喚起する成長戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本はまだまだ強い競争力を持っている。</li> </ul>
	<p>自動車の世界シェアは2割※ ※2013年は3割に迫る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小惑星「イトカワ」の微粒子を持ちかえった小惑星探査機「はやぶさ」の技術は、宇宙ステーション技術よりも難しい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPS細胞（米国は3000人の研究者、日本は200人）</li> <li>※：山中教授自身が所長を務める京大iPS細胞研究所の教職員約200人のうち、9割近くが有期雇用</li> </ul>
	<p>4. 実感の薄い地方の中小企業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業を元気にする。（約400万企業※のうち100万企業？を黒字にする）</li> <li>※：中小企業数は430万（全企業数の99.7%）、約2800万人（全従業員数の71.0%）</li> <li>・公共事業を増やす。</li> <li>・クマが通る高速道路は都会のエゴ。伊勢湾台風で8000人※が死んだ。</li> <li>※：4697人</li> <li>・昭和50年代後半以降、100人以上の大被害台風がなくなった。山に砂防用ダムを作り、堤防を作ったから、被害が減っている。公共事業のおかげで国民の生命財産が守られている。</li> </ul>
	<p>5. アベノミクスは成功するのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本全体を元気にしようというのがアベノミクスの方針</li> </ul>
	<p>6. 超高齢化社会と地方の復権</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化社会が一番早くやってくるのが日本。出生率は1.31～1.35人。</li> <li>・結婚しないのが少子化原因の一つ。男性5人に1人、女性は10人に1人が生涯未婚。 ※2012年出生率データは、日本が1.41、韓国が1.30。</li> <li>・これから地域をいかに活性化していくか？</li> <li>・6次産業化、日本の果物は芸術品。</li> <li>・蕎麦100%で成功している村は、人口が増えている。</li> </ul>

報告の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県の小さな島（観光客年間28万人）は、魚を売らず、地元の民宿で食べる。</li> <li>・B級ぐるめは地元で都会人からみるとおもしろい。</li> <li>・どうすれば人口減少を防げるのか？就職先がない。</li> </ul>
	7. 総括
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安倍さんのチャレンジに対し、批判はしても足を引っぱってはならない。日本は最後のチャンス。</li> <li>・町村がどれだけ元気になるかは、議員の肩にかかっている。</li> <li>・これから景気が少しずつよくなっていく。少しずつ春風が吹いてくる。</li> </ul>
	◆感想
	全体的に安倍政権・アベノミクスの正当性を主張する内容だった。
	今回の研修内容は、あくまでも情報に留め、真意をしっかりと見極める必要がある。
	私たち議員は、第三の矢（成長戦略）に向けて、湯前町の成長政策を明確にして支援しなければならない。住民の代表である議員の力が今後ますます重要になることを再認識した。